
○議長（齊藤 重君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 2時05分）

◇ 稲 葉 昭 宏 君

○議長（齊藤 重君） 一般質問を続けます。

通告順位7番、稲葉昭宏君。

（9番 稲葉昭宏君 登壇）

○9番（稲葉昭宏君） 一般質問を行います。

町長の任期も残すところ1年余となりました。ここにきて、齋藤町政の重要な課題というものは鮮明になってきたように思います。

一つには、防災対策、そしてまた、もう一つは、これは焼却場の問題だと思います。この防災対策につきましては、これは水門の問題ということになるかと思いますが、任期もあと1年余ということで、これは最終的な将来に向かっての意思表示をはっきりとすべき、任期中にはやらなければならない大仕事かなというふうに思います。

その2点につきまして、通告どおりお伺いいたします。

○町長（齋藤文彦君） 稲葉昭宏議員の一般質問にお答えします。

1. 防災対策について。

①「諮問委員会（那賀川水系河口周辺治水対策委員会）の答申が出たが、町長の感想は」についてであります。

10年以上、町の懸案事項の一つであった、那賀川河口の津波対策の諮問に対して答申を受けまして、非常に重く受け止めております。稲葉議員も委員として貴重なご意見を賜りましたが、委員の皆様には長時間に及ぶ熱心な議論により答申をまとめていただき、委員長をはじめとして委員の皆様には心から感謝申し上げます。

答申の中で、津波から町民の生命と財産を守るために、何をなすべきかが明確に示されております。今後、町が取り組むもの、国や県にお願いするもの、町民が自ら取り組むものが明確になったと感じております。

津波から命を守ることが第一であることは言うに及びませんが、松崎の町並みを失ってしまえば、町の主産業である観光は成り立たず、町が滅びてしまいます。千年に一度の津波に対処する構造物はできませんが、百年に一度の津波からは町を守るように、海岸部の防御ライ

ンの一体的な整備を静岡県にお願いして参りたいと考えております。

②「水門建設への今後の対応は」についてであります。

答申の内容については、全戸配布で町民の皆様にお知らせいたしましたが、議員の皆様にご理解いただき、区長会でも津波対策に取り組んでいくことを報告説明してまいります。

その上で、水門建設について静岡県にお願いしたいと考えておりますが、静岡県では、現在、第4次地震被害想定の見直しを行っており、その中でも河川の津波対策が検討されています。

「どこに、どのようなものを作るのか」も検討されているそうですが、当初は来年6月に公表予定でしたが、公表時期を早めるとの新聞報道もあり、優先的に検討していただくために、なるべく早い時期に議会の皆様や区長の皆様とともに、静岡県に要望活動を行いたいと考えております。

③「全町的な防災計画の策定が必要では」についてであります。

松崎町地震防災計画は、平成22年度に改定版が策定されておりますが、その後、東日本大震災の発生や、内閣府が公表した南海トラフを震源とする巨大地震・津波高など状況は大きく変化しております。また、那賀川河口周辺治水対策委員会も河口整備には、町の総合的な防災対策の検討を求めた答申がなされております。このような状況を鑑みますと、防災計画の見直しは実施しなければならないものと考えます。

また、地震に特化した「松崎町地震対策アクションプログラム2007」も、平成20年に策定されております。今後、県の第4次被害想定が出される予定となっておりますので、地域防災計画とも整合を取りつつ、改定に向けて進めて参りたいと思います。

①「断念した理由について」、②「現況は」③「今後の対応は」についてであります。

1点目の断念した理由ということですが、昨年から西伊豆町にごみ処理を要請していた件を、取り下げた理由と解釈します。ご承知のとおり、平成22年12月の雲見区臨時総会で決まった、平成26年3月撤退に向け町は努力する旨の結果に基づき、西伊豆町に要請したのですが、この間、平行して雲見区と最終処分場の閉鎖に関して協議を進めてきました。そして今年3月末の雲見区臨時総会において、最終処分場の覆土工事実施と、クリーンピア松崎の5年延長を認めることが、区民多数の賛同を得て決定されました。この雲見区民の貴重なご理解を得たことと、雲見区三役との話し合いの中で、松崎のごみ処理がよりよい方向に向かっていると確信を得たことが、西伊豆町には申し訳なかったのですが、ごみ処理の要請を取り下げするに至った理由であります。

続いて2点目の現況及び3点目の今後の対応についてですが、藤井議員の質問にお答えしまし

たとおり、現在は延長に向けての条件について雲見区と協議中であり、早急に雲見区と延長条件等について、円満に合意できるよう努力していく所存であります。

今後の協議の経過過程については、適宜議会に報告してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○9番（稲葉昭宏君） 一問一答でお願いいたします。

○議長（斉藤 重君） 許可します。

○9番（稲葉昭宏君） 町長、体の調子はどうですか。大丈夫ですか。副町長がダウンしちゃってね、町長がまたダウンしちゃっては松崎町は沈没ですから、気を付けてください。

まず、いま答弁をもらったわけですけれども、私は、諮問委員会の中に入っていて、いろいろ協議を重ねてきて、その内容については大体承知をしております。そして、その委員会の中にも諮問機関と言えども町長はそこに出席をしていたわけですから、その内容のことについても充分把握をしているというふうに思うわけですから、委員会じゃなくて、この議会として質問をすべき事柄について質問をいたします。

大体この水門の問題というのは平成10年からとにかく県の方が代行事業でやるよということから始まっているわけですね。そして、町長が替わるたびにこの問題が出てくるわけです。今まで歴代の町長が平成10年から替わるごとに、しばらくするとこれが蒸し返されてくる。そして、また反対でだめになる。これは最終的には平成17年の時にも深澤町長の時にも持ち上がってきた問題で、どうもこれは経緯をみると、住民の方からこれは主体的に、自主的に住民の方から水門の問題が上がってきたんじゃないわけですよ。どっちかという、為政者の方から「造りたいけど、どうだ」と、こういう経緯がみんな、その都度その都度そうです。

そして、今回3.11があって、町長も今度は災害については大変わが町ということを考えた時に、当然そこに関心が向くのは当たり前の話なんですけど、ちょうど3.11が終わって、5月の末にアンケートをすぐやりましたね。直近にやったわけです。これは災害の時に、ちょうどどういうタイミングでどういうことをやったかわからないけれども、すぐアンケートをやった。

それは、どうも、前に私は課長に聞いたんですけど、これは下田土木事務所の主導ですよ、「主導でこのアンケートをやったんです」という答弁だったと思います。そんな記憶をしているけれども、その時に町長の意思というのは、そのアンケートをやる時にどういった意思だったのか。町長も承知はしていると思うけれど、災害があった、いまアンケートをすぐ取るなんというようなことは、ちょっと早計じゃないかというふうな、そういう感じは持たなかったですか。

○町長（齋藤文彦君） 若干そのような感じはなかったわけではないわけですが、やっぱりこの時やらなければうまくないのかなというようなことはありました。直後にやったら皆さんがどのような反応を示すかというようなことが必要ではないかなと思ったところです。

○9番（稲葉昭宏君） そういうことを考えた時に、どうもこれは、私は町長が6月議会で急にとにかく「水門を造りたい」と、ここに時系列で私は持っていますが、その後町長が盛んに、もうこれは6月14日、これはうちの同僚議員の一般質問にも「私は水門は必要だ」と断言をしているんですね。そして、また、その8月の全協の時にも、「私は水門を造りたいです」とはっきり明言している。そして、9月もそうです。「私は水門を造るべきだと自分では思っている」こういうふうに明言をしているわけです。

こんなに強い意志であなたが水門を造る造るということを意思表示をしているわけだけでも、私はそれが・・・、じゃあ、災害が、先ほどの話にも町長は言っていたけれども、被災地を見学してきたと、その意を強くするというのはわかるんだけど、水門があればすべてが、住民の命を守れるのかというふうな疑問を持つわけですが、なんであなたがこんなに急に強調する、そのあなたの背景というのかな、ちょっとわからないけれども、ちょっとその点を。

○町長（齋藤文彦君） 稲葉さんの意見ですと、私が強調しているように言っているわけですが、私も、第3次被害想定を合せて、ほとんど松崎は南川の水門ができていますから、那賀川が開いているわけですね。どうしてもあれを見ると、やっぱりここはそれなりのものが必要じゃないかなというようなことをずっと思っていましたから、私はそのようなことを言ったわけでございます。

○9番（稲葉昭宏君） 町長があそこから毎日通ってくる時に、無線局の所から町を見た時に、それは去年の12月の議会の時にも「町長、森の石松じゃないか。あなたは。木を見て森をみないんじゃないか」という質問をしましたけれども、それじゃあ、本当に水門が唯一かということになるわけですが、それで、それから、今度は諮問機関の立ち上げということになるわけですね。この諮問機関の立ち上げにつきましても、どうも当初から大変立ち上げの時から、その過程が異常ですよ。異常とはどういうことかということ、全協であなたが説明をした時に、とにかくアドバイザーで富士常葉の阿部さん、そしてもう一人静大の原田さん、先生をオブザーバーとして呼ぶんだという話だったんだけど、その二人に議決権を与えましょうと、こういう話だった。これはもう全協でやられてご記憶のことと思うけれど、これは議会の中で反対をされて、とんでもない話でしょうと、それは。地元において、地元の住民でない人間がわけがわからないのに、学者にその議決権を与えましょうなんて、こんな異常なシナリオはないじゃないかと

思ったわけなんだけど。

一連のそういうことを考えてみると、そうすると、どうもこれは主導しているのがあなたじゃないよと、あなたは造りたいと旗を揚げたけれども、後はおれたちに任せろと思うように、とにかく、おれたちが何とかそういう形で諮問委員会を作れば、うまくそういう流れにもっていくよというふうな作為的なものが当初から私は感じられた。それはどうですか。

○町長（齋藤文彦君） 作為的なことは全然ないです。

○9番（稲葉昭宏君） そういうようなことがあって、そして、またいろいろこれはただ4回、どうもこの諮問委員会の運び方についても大変何か後ろに意味ありげな一つの作為的なもの、いま言ったように感じる。

これは2点目なんですけれども、そして、やっていくうちにとにかく、諮問は後で出たわけよ。12月12日に第1回が始まって、その時にはすでに町長は第1回の諮問期間の時にあいさつをしている。水門が必要だというあいさつをしているわけです。

おれたちは、委員の間ではとにかくこの委員会は水門を造るか、造らないかの委員会だねというふうな意識が全般的にあった。

そして、第1回目の時に、業者がみんな並んで、とにかくあなたは公募までして公平に町内から意見を吸収しようという時にも関わらず、とにかく土木事務所の所長以下3人、そして、学識経験者、そして、なんですか、日本工営、なんかそれが2～3人いて、物々しい雰囲気の中で始まった。

そして、その学者の方々のいろいろな話、最終的にはどういうことかということ、水門は必要でしょうというふうな結論付けみたいなのがあった。そうやっていくうちに、やはりこれは「なにかおかしいぞ」ということは、これはもう薄々そういうふうなことが感じられた。そういうふうに私は思っている。

だから、もう諮問委員会がそういうことでスタートしているわけですよ。そして、諮問がなんで最初の時に・・・、これは鈴木さんの時にもあった。なんで最初の第1回目の時にこういうことで諮問をしますよという実体がわからなかった。結局6月22日になって、初めてあなたの方から委員会が諮問を受けたわけですよ。これは、なんで、普通は諮問委員会をやる時には、こういうことで諮問をしたいから、諮問委員会を開きますよということ・・・。なんでそこにずれがあったのかな。ちょっとこれはどういうことなんでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） いろいろありますけれども、なんと云いますかね。ずれと・・・、いろいろ稲葉さんがいろいろ背景のことを言いますけれども、私はそういうことは全然なく、私は水門も

ある程度必要だと思っていましたけれども、ソフト面も必要だなというようなことを思っていたわけでありまして、そのような背景とかなんとかというのは、ぼくには全然考えられない。そのずれというのはわからないんですけれど、はじめ松崎町は第3次被害想定に合わせて全部をつくっていて、そして、3月11日に20.7メートルというような津波被害のことが出ましたので、それに対応するためにはというようなことで、私は諮問した。それにはやっぱり松崎的那賀川周辺には商店街とか役場とかいろいろあるわけですから、これがL2のやつがきたらだめでしょうけれども、L1がきたら、それなりに防がなければいけないのかなと思って私は諮問したところでございます。

○9番（稲葉昭宏君）　なんか動機がね。私はこういう重要問題であるからね。

今まで各歴代の町長が実現できなかったこの案件について、とにかく真剣に、そして、取り組んでいくんだと、今までこうやって過去を振り返ってもだめなものを私の代になって「何とかしようじゃ」という意気込みであるならば、この諮問の時に正式に「この部分はどうか、この部分はどうか」という諮問の実体というものがあっていいと思うんだけどね。

ところが、いま言うように6月の、なんで遅らせたかというのは、これは、私の推測ですけども、これは時系列でいくと、12月6日に講演をやったわけだ。富士常葉の阿部さんと原田さんがやって、阿部さんは盛んに水門を造りたいような感じだったよね。私は沼津の「びゅうお」を造ったとか、なんだとかと言ってね。

そして、やはり水門は必要ですよと、原田先生はどっちかと言うとソフト面で講習をした。そして、今度はまた講演会を2回開催したわけですね。第2回の治水対策委員会を2月14日にやった。そして、そういう中で、ここで諮問委員会の様子をぼくはみたと思っているんだよ。これは推測でね。

そうしてから、今度はその答申の内容がなかなかふるっているなとぼくは思ったんだけど、あまりこれは・・・、私の考え過ぎなのかな。

ソフト面とハード面でとにかく両立して対策を諮問してきた。これは本来であれば、このソフトなんていうのは、あなたはいらないわけだよ。町長としては。それはなぜかと言ったら、もう水門を造りたいから、そのことをどうだっていうことで端的にいいわけだけど、それじゃあ、結局、なかなかコンセンサスが取れないだろうという一つのことがあった。その間にいろいろのアンケートを取ったわけだ。

そして、その流れをみていくと、どうもやはり誘導的なそういう形のものがそこにはっきりと鮮明に出てくる。そして、アンケートの関係も、課長にも聞きたいんだけど、このアンケ

ートも大変な・・・、私はおかしい話だなと思うんですよ。

第1回目と第2回目というのは、質問がまったく同じなんですよ。そうして、第2回目をやる時に無くなったわけだ。これはごみで捨てちゃったなんていって。そして、私が課長に聞いた時に、質問をした時に、この日本工営というのは一部上場の会社でそういう分野ではもう本当に突出した会社であると。その突出した会社がこんな大事なアンケートを無くすわけですから、とんでもない会社だけれども、頼む方も頼む方だ。470万円もかけて委託をして、「これはまあどういことかいな」という話をもっていたら、そして、それじゃあ、こういうことで私たちが紛失したから・・・、その時に町長は・・・、これは新聞ではだいがあちこちで大きな問題になったんだけれども、町長は寛容だから、その時に町長がとにかく向こうの役員さん、お偉方が来て、謝ってくれたと、だから、誠意をもって謝ってくれたと、だから、私は、その業者に続投してやらせましょうと。

普通であるならば、これだけ大事なものを無くして、業者をそこでバツサリ切るのが当たり前だと思うけれども、町長は寛容で、そのままやらせますよと。「やらせましょう」は、いいんだけど、ここが作ったアンケートの用紙が全然内容が違っているわけですよ。

これは町長、お気づきですか。

- 町長（齋藤文彦君） 読んでいますので、わかっています。
（稲葉議員「どこが違っていますか」と呼ぶ）
- 町長（齋藤文彦君） 最後の方がちょっと違っているんじゃないかと思います。
（稲葉議員「どういうふうに感じましたか」と呼ぶ）
- 町長（齋藤文彦君） ちょっとどういうふうに感じたというのは無いですね。
- 9番（稲葉昭宏君） じゃあ、課長に聞きます。

課長、これを、アンケートをやる時に、おそらくこれは・・・、どっちが主導でやったの、これは。あなたの方へも、あれは当局の方へと「こういうアンケートをやりますよ」という話があったのかね。

- 産業建設課長（菊池三郎君） アンケートにつきましては、先ほど議員がおっしゃるように、1回目、2回目はほぼ同じような内容であったと思います。3回目については、内閣府が3月11日に発表した20.7メートルという数字の公表がございましたので、そこでやはり住民の意向を確認する必要があるんじゃないかというようなことで、それは議員の方からもいろいろご提案を受けて対応をしているところでありまして、そのような新しい公表の事項を加えて、アンケートを実施したという理解をしております。

○9番(稲葉昭宏君) ちょっとね、クエスチョン12というところでね。これが、早い話が水門は必要であるという、その答えを引き出すための誘導の質問というか、アンケートの質問なんですよね、これは。

この質問は、「那賀川河口の津波対策水門は、施設が想定している高さの津波から、住民の生命、家などの財産を守るためのものです」と、「施設が想定しているよりも高い津波に対しては、避難時間を少しでも稼ぎ、被害を最小限にとどめる役割があります。津波対策水門が必要であると思いますか」ということになれば、これはもう100人が100人そう思いますよというふうに答えると思うんですよね。

だから、これは私は、それなりのアンケートだからアンケートはいいと思うけれども、こういう手法できて、そして、先ほど鈴木さんといういろいろ答申の時期についての話があった。これは7月に入ってから急に、7月と8月で3回やって、もうすぐに答申だという。だけど、これはこの時に明言をしているんですよ。それは、委員会で説明をしている時に。

なんで、答申はいつごろになるんだという話をした時に、私が、6月8日の時だよ。この時すでに副町長は7月に答申を出したいと、委員会でこういう答弁をしている。ということは、もう県に「なんでそんなに急ぐんですか」と私が聞いたら、「早く申し込まないと優先順位があるから遅れます」と、こういう答弁というのは、もう水門を造りますということですよ。

それは、まだ続行中で要するに答申も出ていない時に、その答申によっては、例えば、町長は先ほどの鈴木さんの質問の中でも、これは答申は「造れということじゃないよ」という話をしましたけれども、けれども、結局、その時すでに町長は7月の末には県へとすぐ申し込むんだという話をしました。そうすると、どうしてもこの諮問委員会は水門を造れという話じゃないか、そういうものじゃないかというふうに理解をされるわけです。

そういった、こういったということがあって、大変この・・・、さっき町長が、私の一つの質問に対して、「大変明確になった」という答弁をもらった。それは、答弁をもらった。明確になったというのは、水門を造れということが明確になったという意味でしょう。あなたの受け止め方は。そういうことだよ。

そうすると、どうも諮問委員会の意思というのが、私は、ちょっとあなたが十分に把握していないんじゃないかというふうに思います。

それはどこかと言うと、私たちはこの委員会の時に、どういう形で進められたかというね。もうとにかくアンケート、アンケートだと。アンケートを軸にした形の中で議論がいったものが結構あるわけですよ。

そういう時に、先ほど言った、この24年5月のアンケートの結果というのが5月に日本工営がやったやつの中に出てきていますけれどね。

私は、これは大変重要なことを見落としているんじゃないかなと思うんですよ。というのは、水門は、これは、水門の66パーセントは必要と回答しているというだけの結果なんです。これは「必要ですか」、「必要でないですか」という質問に対するものです。これが66パーセントだと。ところが、今度は要望事項を見ますと、ここにね。これは要望ですから、考え方をどうだと聞いているんじゃないですよ。住民に対して、今後当局に対して、津波対策で町に対して、「津波対策の要望はいかがなものですか」という時に、避難タワーの設置というのは、141とこれが一番大きいわけですよ。そして、避難場所の整備というのが、これは70で、その次。実際この要望の中で、土木による対策の内容という項で水門の建設なんていうのは22しかないわけです。そうすると、必要だけれども、造ってくれという要望とこれはまた別のことなんです。

だから、その諮問委員会の答申は、有効であるということは間違いない。66パーセントはね。しかし、住民の本当の意思というのは避難場所を造ってくれという要望の方がはるかに優先している。こういうふうに思いますけれども、町長はどういうふうにみましたか。

○町長（齋藤文彦君） アンケートの取り方とか、考え方とかいろいろあると思うわけですが、でも、那賀川水系河口周辺治水対策委員会の中では、水門を造れとは言っていないわけですよ。それで、それなりの減災効果があるというようなことを謳っているわけで、それを踏まえて、私が最終的に判断することだと思っているわけです。

それで、先ほど私はソフト対策は関係ないとかなんとかと言ったわけで、やっぱり水門もある程度必要でしょうけれども、ソフト対策もちゃんとしなければいかんなど、多重防御のためには必要だと私は思っています。

それで、稲葉議員の意見を伺っていますと、それは稲葉さんは頭がいいから、斜めから横からいろいろ考えるわけで、あまり考え過ぎのところがあるのかなと私は思っているところがあるんですよ。

ぼくは単純に考えて、ぼくは本当に単純で、これはやっぱり開いているのはうまくないのかなというようなことがあって、私は行動しているわけで、そんなに深いことを私は考えているわけではないわけでありまして、ちょっと稲葉さんの意見を聞いてみると、なんか深読みしているのかなというような感じがしないわけではないわけでございます。

○9番（稲葉昭宏君） 私は町長と話をしているんだよ。松崎町長の・・・先ほどの福本議員も言っていたけど、松崎町の町民のあなたがトップなんだから、私はトップと話をしているんだか

ら、私はそんなことは軽く考えていないだ、へちまだなんていう言葉はあまり使わない方がいいな。本当に重要な問題なんだよ。これは。ずっととにかく規模においても、何をおいても町にとっても大変重要な問題。

そして、結局、10年の時は県の代行事業で県がやりますよというんだから、これは地元の負担はゼロだと、今度はこっちから造ってくださいよという時には、地元からも金をもらわなければまずいですよと、こういうことになろうかと思います。というのは、先日自民党のヒアリングがありまして、下田であって、有名なあなたも崇拝する有名な何々県議さんもいらしていた。そして、国会議員の先生方もいらして、そして、その時に、支援局長の危機管理局長がこういうことを言った。私はそこに一つのヒントがあるなというふうに直感をしたんだけど、いま大変県内では避難塔の要望が多いと、そして、川勝知事も要するに51棟は年内に造りたいんだと、ところが、現在進行中なのは7基しかない。そうすると、結局これは早く優先順位が必要だと、しかし、補助金はどうですかと、うちの方に土肥でやった例があるわけですが、土肥は3分の1だと、「これは、局長、もう少し補助率が上がるんですか」というふうに聞いたら、「これだけ多いと地元の負担を多くしてもらわないと、とても国・県でまかないきれませんよ」と、こういう話をした。

そういうことを考えても、今度は水門を造りたい。造りますなんてことをやって、ただでやれますなんてことはないと思うんだよ。それで、当町はこれだけ、あの第3次想定を受けてのこれは計画だったわけですよ。そして、県がやる代行事業ですから、全部県の技監だなんか、専門家がこうだというふうなことも作って、ここにこういったものがあるわけだね。

だから、そうしますと、これ以上の想定が・・・、L1、L2ということになるんでしょうけれども、まだまだ結局大きな規模になるんじゃないかと想像されるよな。そうすると、もう地元負担も多くなる、そういうことを考えた時に、私はやはりこれは、どうも見ていても果たして当町にとって将来に向かって本当にこれは必要なかどうか、もう一度町長の頭の中で考えてもらいたいなと私は思っていますけれども、その点はいかがですか。

○町長（齋藤文彦君） いろいろこれから大変なことがあると思いますけれども、やっぱり自分が長として、あそこをもし開けていて大きな津波が来て大惨事になったと言われると、あると、これはやっぱり長として本当に町民に申し訳ないなと思うわけで、やっぱり自分が一般の町民だったらいろいろ考えがあると思うわけですが、長としては、やっぱりあそこは松崎町長として、あそこはやっぱりふさぐ必要があるのかなとずっと思っているところでございます。

○9番（稲葉昭宏君） 町長の気持ちは本当にわかります。

ちょっと方向を変えて、2番目に移りますけれども、まず、答申が出た。先ほど町長も言っていたように県へとすぐに申し込みをするんだという時に、この平成10年の時のこの図面というのは、これは幅が78メートル、高さが35メートルという規模ですよ。これは町長の手元に・・・、充分に見ているからわかると思うけれども、幅が伊藤園の約4倍なんですよ。これがね。このでかいものがここにできる。これは、要するに工期も10年という形のわけですよ。

一応着工してから10年という試算だったわけなんだけど、現在、これは町長がこれからいろいろ・・・、なんか区長なんていうのが出てきて、区長にも同意を得たいとやっているけれど、私は大変無意味なことだなあと。

やはりこれは専門的な知識が本当に大切なことですよ。これだけ重要な問題をやる時に、我われのレベルでどうだこうだ、造るだへちまだなんていうようなことは、とてもこれはできるもんじゃない。

それを、ただ答えが出たことだけを、いわばそれはもうそこ1点に集中して、それがあたかも「民意だ」みたいな方にくみ上げて、そして理論武装をするというのは、これは大変危険なやり方だと思うよ。

だから、もうそういう形の手法というのは、ぼくはやめた方がいいなと思うんだけど、ただ、期間のことを・・・、だから10年、ところがそれにいくまでに、結局、同意を得ていくまでには大変なまた時間がかかろうかと思うわけですよ。

これは9月9日の産経新聞のあれだけど、東北の被災地の状況というのは、防潮堤が全然進んでいないという、これは国が造れと言っているわけですよ。ところが、なかなか進んでいないと、早い話が国で指針を出しているのは着工距離のわずか14パーセントしか今のところできていない。

そうすると、なぜかというのは、景観が損なわれる。各地で異論が噴出、合意形成ができていない、それに時間がかかるからだというふうに原因を言っているわけですよ。そうすると、着工して10年かかる。あるいはそれ以上かかるだろうと思う。そういう状態を考えてみて、これは、じゃあ、町長、その間の10年間はどうするんですか。来るかもしれないわけです。その対策はどうするんですか。

○町長（齋藤文彦君）　だから、やっぱり一度県の方に行って、松崎がこういう答申が出て、私としては造りたいというやっぱり意思表示を県にしないとできませんので、ぜひ行きたいと思っています。

それで、どのような水門ができるかとなると、やっぱり第4次被害想定に合せたものになる

と思いますので、6月以降にならなければどんな形とか、どんな高さ等が出てこないということもあるわけですが、今からやって、それはかなり私も時間がかかると思いますので、その間何もしないというわけにはいきませんので、このソフト対策等をいろいろ皆さんと話し合いながら進めていきたいと思っています。

○9番（稲葉昭宏君）　　なんですか。時間がかかるから、その間に避難塔でもやって、その対策をやるということですか。

避難塔の話が出ましたから、私は、今の状況で、これからの松崎を考えた時に、本当に水門なんかでやることよりも、やはり避難塔をやるとか、そういう対策の方が賢明だと思いますよ。そして、お金もかからない。大体こう見た時に、旧町内の中で人口はどんどん減っていくわけです。そして、いろいろ考えても、役場があり、江奈は伊東園があり、まつぎき荘があると、こういうところへと避難をする。あとの衆は山があるから、そちらを徹底してやっていく、そして、道部だとかそういう、あの川沿いを見ても戸数なんかは、たかが知れているわけよ。そして、こっちの西区の問題だって、もう本当に100何人、中区なんか200人くらいしかいないんじゃないですか。そうしたら、避難塔を2基も建てていけば、そのことは充分に対応できるんじゃないか。早くそれができる方が、とにかく早く造る方が住民のためにも、心の安心を皆さん住民は得られるのではないかと、それも行政の大きな使命だと思うわけですよ。

いつできるかわからないような水門にエネルギーを注いで、この不景気に、おれの友達をよく言うんですよ。「齋藤町長ものんきだな。この不景気に水門、水門と、それどころじゃないだろう、何を考えているんだ」と、言葉は失礼だけれど、そういう人も住民のぼくの友達とはよくそういう話をする。

だから、そんなことよりもすぐ逃げられるところを着工した方がいい。だって、土肥のあの避難所は2カ月でできたそうですよ。やろうと思えばすぐできるわけよ。そして、金もかかるわけじゃないわけよ。だから、そういうことも考えた時に、やはりそんなことよりも・・・、これはあと10年といたら、町長はあと3期、4期もやらなければ、あなたね。責任上・・・、頑張りますか。それは笑い話ですが、だから、そういうことも考えた時に、どうも私はね、それにエネルギーを傾注するというのは、町のエネルギーを傾注するというのは、あまり賢明じゃないと思う。だから、全体的な結論はどういうことかという、もう造るがため、今やっているいろいろな水門の問題については、本当に我われが印象を受けるのは、もう造るがためのそんなふうな一つの動き、これは私個人の主観かもしれないけれども、そういうふうに思う。だから、私はもうそんなことはやめて、本当に現に明日からでもすぐできる方法をやられる方がいいと思

います。

そして、ちょっと全然話が変わりますけれど、ちょっと方向を変えて企画観光課長にちょっとお伺いします。なんか「美しい村」のことを町長はいろいろ力を入れてだいぶやっていたけれども、先ほど課長の方から資料をいただいて、今のこの「美しい村」の進捗状況はどのようになっていますか。

- 議長（斉藤 重君） 通告以外になるけれど、関連ですか。
- 9番（稲葉昭宏君） 議長、担当だから、これに充分に関係があるよ。通告がないから答えられないというのは・・・、答えられないような問題じゃない。
- 企画観光課長（山本 公君） ただいま稲葉議員の方から「日本で最も美しい村」への進捗状況はどうかというようなことでございます。

まず、県の方で「ふじのくに美しく品格のある邑」というのが4月に設立をされまして、35市町が入っております、松崎町は発起人ということで、そちらについても県内版ということですが、その「美しい村」を目指して取り組みをしているところですが、日本のその連合については、6月だったですかね、その講演会を、お話を丸高さんにやっていただきまして、町民の皆さん140～150人の参加をいただいておりますけれども、まちづくり委員会を作ろうということ、それは昨日の高柳議員のご質問の中でもお話をさせていただきましたけれども、各団体の皆さん、あるいは住民の皆さんに参加いただくそういうものを作っていくと、2月から3月にかけて申請をさせてもらうということになっています。

- 議長（斉藤 重君） 時間は。
- 9番（稲葉昭宏君） 延長してください。
- 議長（斉藤 重君） 5分延長します。
- 9番（稲葉昭宏君） 私はこれは、「美しい村連合」については、町長がかなり力を入れてやっている取り組みなんですがね。ここの設立の項の中に、「景観や環境を守り、これを活用することで観光的付加価値を高め、地域資源の保護と地域経済の発展に寄与すること」がこうやって書いてあるわけです。

ところが、町長、これはまだその、何回もこの図面を出すけれどね、これだけのものが建って、海から見た時に景観が損なわれませんか。

あなたは自然派でカヌーでよく海に出るわけだ。海からわがふるさとの松崎町を見た場合に、こんなにどでかいものができて、これはもう本当に景観を損ねるんじゃないの。

あなたはよく無線局から見てあれだと言うけれども、これは無線局からこんなどかいもの

を見た時に、これはおれが造れと言ったけれど、とんでもないことだったなというふうにあなたは結局後悔するようになるんじゃないの。どうだね。

○町長（齋藤文彦君） 「日本で最も美しい村」とやっぱり生命・財産を守るということは若干根は繋がっていると思うので、やっぱり命がなくなってしまうたらどうしようもないわけですから、ぜひ水門は必要だと私は考えているところです。

ただ、先ほどの稲葉さんの意見で、私は水門も必要だと思っていますけれども、佐藤議員の質問に答えたとおり避難塔を造るといようなことを同時に進めて、多重防衛的に防災に強いまちづくりといようなことを考えていますので、水門、水門と私も言われると非常に辛いところがあるんですけれども、私は必要だと思っていますけれども、水門、水門と言っているわけじゃなくて、一緒に同時にやるということですので、ご理解いただきたいと思います。

○9番（稲葉昭宏君） 時間がなくなって・・・。

それはわかっていますよ。ただ、水門が重要な問題だから、お金もかかるし、町民の関心も高い。そして、これだけのことですから、ぼくはあなたにも何回も個人的に言ったことがある。こういう大事業は政・官・行、これがよってたかってとにかくいろいろな外からのあなたに対する中傷だなんだが、いろいろな故意的なものが入ってくる。

これは50億円以上になると思うんですよ。そうすると、やはりこれに群がる利権の構造というものがそこにできてくる。そういう中で、とにかく町長がやらん方が私はいいと思っている。これだけ申し上げたいと思います。

そして、あとね・・・、ちょっと時間がなくなっちゃったけれど、焼却場の問題です。これは、焼却場は、私は、時間がないからあまり深いところまではいきませんけれども、これは町長がね、どこが一番のポイントかという、あなたがこの町のトップだ。そして、自分の理念で答申まで出て、答申は雲見を説得しなさいよと、5年間猶予をもらっておくのが一番、それで続行するのがいいよという答申を22年にもらっているわけですよ。

その答申までも覆して、私はもう西伊豆へいくんだと、それが将来に向かって一番いい方法だということを議会にも明言をしているわけだ。だから、我われも西伊豆の議員に対して、とにかく「今度は松崎がそっちへと町長がこういうことで明言をしたから、ひとつよろしく頼むよ」と議員同士もそういう話を詰めてきたわけですよ。

そして、向こうも「将来は合併をしなければならないんだから、それはもうおらあ方は、ちょうど能力も充分空いているんだから、そういう形でやろうよ」と、快い返事をもらっていた。

ところが、急きよそれはその間のことは、この前の全協の時にもやったんだけど、説明が

なかったじゃないかと、こういうことがあったんだけど、議会にまでそうやって町長の意思を鮮明にしておいて、そういうものをやっぱり平然と、私たちから見れば平然とそういうものを、方針を変えるというのは、どういうふうに町長は思っているのか。議会をどういうふうに考えていますかということです。

○町長（齋藤文彦君） 私は一般質問ですかね。私は西伊豆町の方へごみ処理をお願いすると明言したわけですが、その間1年余が経って、いろいろあったわけですが、本来ならば、西伊豆町長のところに行って、「私がお願いしたわけですが、1年余経っているんですけど、どうなっているんですか」とちゃんと西伊豆町長の話とちゃんと聞いてから、本当は方向転換をすれば良かったのが本当だと思うわけですが、こちらがお願いに行って、こちらが断って、非常に西伊豆町に対しては失礼だなと思うわけですが、雲見の方と話をする中で、こんなことを言うとあれですが、いい方向に進みだして、松崎町のためには、いろいろ西伊豆町に言われることはあるかもしれないけれども、松崎町にとってはこっちの方がいいのかなと決断した次第でございます。

○9番（稲葉昭宏君） 時間がありませんから、町長に一言要望だけしておく。

重要な問題を軽く扱わないことだ。そして、やはり一回・・・、我われは議会人ですから、議会を軽視してもらっては困ります。そして、あなたの理念がこうだということは信念を持って貫き通す、そして、そういうことであれば、議会の方もやはり将来の町に向かってともに全力を尽くそうじゃないかと大いに協力していく。だから、この件につきまして、みた時に、どうもちょっと町長も人が良すぎて軽いんじゃないかなという評価もあります。

ただ、あと1年余あるわけですから、あるいはそれ以上続投していこうというお気持ちはあるろうかと思えますから、自己研さんに励んで、本当に立派なリーダーになっていただきたい。そういうことです。

以上、私の質問を終わります。

○議長（斉藤 重君） 以上で稲葉昭宏君の一般質問を終わります。

暫時休憩いたします。

(午後 3時00分)
